

「 熱く三年間を駆け抜ける ～ 地域あこがれの袖ヶ浦高校 ～ 」

1 学校紹介

本校は、昭和51年に地域住民らの強い願いと支援を得て、田園風景と豊かな自然環境に恵まれた現在の地に開校し、46年目を迎える。袖ヶ浦市唯一の高校として、創設以来一貫して「清純にして若々しい地域青少年の憧れの学園」づくりを使命とし、現在は833名の生徒が在籍し、自己の目標達成に向けて学んでいる。普通科のほか平成23年に設立され、本年度11年目を迎えた情報コミュニケーション科を持ち、『自己を認め、人を思いやる豊かな心の育成』を重点目標に掲げる中堅校である。日々の授業はもとより、すべての教育活動の場で、きめ細やかな指導を実践し、生徒一人一人の進路実現を支援している。また、生徒たちは、放課後の部活動にも一生懸命に取り組み、運動部・文化部ともに多くの部が県大会、関東大会、全国大会で活躍する等の輝かしい実績をあげており、文武両道の活気にあふれた学校である。さらに、本校の一番の強みは、地域住民や近隣の学校とさまざまな連携を図りながら、通常の学校生活では味わえない『新たな発見』『計り知れない感動』『やればできるという自信』を実感できることである。

2 取組・成果・反響

(1) 袖ヶ浦市郷土博物館と連携した取組

ア 学芸員による出前授業

6月17日 木曜日、本校に袖ヶ浦市郷土博物館の学芸員を講師として迎え、2学年の日本史の授業にて実施した。博物館と学校が授業という形で連携し、生徒に袖ヶ浦市の歴史や建物等に興味・関心を持たせることを目的とした。授業では、「袖ヶ浦市を知ろう！ー通学路の歩き方・神社編ー」のテーマをもとに、本校周辺にある神社や古墳についての資料等を電子黒板に投影しながら紹介と説明が行われた。普段、何気なく利用する通学路の近くに神社や古墳があり、神社が建てられた背景や古墳の歴史などを知る機会になった。また、本校の所在地名である「神納」の名の由来についても詳しく紹介があった。

授業を受けた生徒からは、「袖ヶ浦高校の近くにある率土(そと)神社の歴史について知り、興味を持った。今度行ってみようと思う。」「以前から『神納』という地名の由来が気になっていたの、知ることができてためになった。」との感想が聞かれた。

イ 上総堀り体験

袖ヶ浦市郷土博物館では、市民等を対象に重要無形民俗文化財「上総堀りの技術」体験講座が実施されることになった。この講座開催の目的は、「上総地方で発案され、継承されてきた上総堀りの技術は上総堀り伝承研究会に伝承されているが、会員の高齢化など、確実に伝承しているとは言い難いため、世界的な需要が高い、上総堀りの技術を継承するために、体験講座を開催し、伝承者を育成する。」こととされている。今回この体験講座に本校生徒も参加することとなった。

今回の体験講座は、10月から1月上旬にかけて、全9回にわたり実施される予定である。本校の生徒4名がこの体験講座に参加し、「上総堀りの技術」について知り、学び、体験をし、伝承者の一助となれるよう取り組んでいく。

※「上総堀りの技術」とは、西上総地方の小櫃川、小糸川流域で開発、発展した井戸掘りの技術を指す。西上総地方の地質的特性により、ポンプを使わずに水が白噴する井戸を掘ることができ、主に灌漑用の水源として利用された。明治時代から昭和の中頃まで、日本の農業、産業の発達に大きく関与し、現代でも水不足に悩む海外で活躍するほか、自然と調和した道具や技術が注目を集めている。さらに近年は災害時にも役立つ技術として再認識されている。

「上総堀りの技術 ー竹と木と鉄が生んだ水ー」

(令和3年3月26日 袖ヶ浦市郷土博物館発行) より

(2) 高大連携 「SDGs」の学習 (「SDGs」: Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標))

ア 1学年「今日から始める SDGs 入門」講演会 ～淑徳大学の講師の先生をお招きして～

本校1学年は「総合的な探究の時間」の授業で「SDGs 学習」を行っており、9月16日 火曜日 淑徳大学より、講師の方をお招きし「SDGs ってなんだろう?～持続可能な社会を目指して～」を演題とする講演会を実施した。すべての生徒が SDGs に親しみを感じられるように基礎的な知識から一歩踏み込んだ内容 (SDGs のこれまでの流れや企業の取り組み、現在の社会との関わりについてなど) を幅広く扱っていただいた。「SDGs」は、国連が定めた2030年までに達成を目指す『「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会』を実現するための目標であるが、講演では「SDGs は、現在の社会と深い関わりがあり、企業をアピールする戦略となっている」、「SDGs は、私たちの生活にとっても身近なものであって今日からできることがある」が強調された。さらに例えば、今日からできることとしては、「買い物では「陳列棚の手前から取る (賞味期限が近いものを取る)」、「マイバッグを持参し、レジ袋をもらわないようにする」などが紹介された。メディア等で目にすることも増えてきた「SDGs」ではあるが、1年生にとっては「SDGs」について考え、興味を深めるきっかけとなったといえる。講演会に参加した生徒からは「自分のちょっとした行動で変えることで未来が幸せになるのなら、『今からできること』に1つ1つ取り組んでいきたいと思った。」、「SDGs は生活の至る所に関係していることを知った。もっとこれからの地球のために、自分にできることを探していく。」との声が聞かれた。

イ 2学年「SDGs 講演会」 ～開智国際大学の講師の先生をお招きして～

2学年では「SDGs の視点から自分たちの学校生活を考える」学習を進めている。10月7日 木曜日、2学年を対象に「SDGs について知る講演会」を実施した。開智国際大学より、二人の講師を招き、それぞれ「勉強しなきゃだめ?ー教育と貧困削減」、「フィリピンを例について考えよう」を演題とする話を聞く機会を設定した。自らの体験談を交えた講話では、ここ2～3年で SDGs に多くの企業が取り組み始めていることや、1つの事例としてフィリピンにおいては「SDGs」の目標と現実には大きな隔たりがあることなどを学んだ。また、高校生が「SDGs」の取り組みとしてできることとして「まずすべきことは学校の勉強や様々な活動を頑張ること」、「発展途上国などの現状を自分で調べて知ること」などが挙げられ、行動とともに「自分はこうあるべき」という思いが持続可能な世界へ近づく一歩になることが強調された。参加した生徒からは、「自分自身の発展が社会の発展につながることを心に刻んで生活し、勉強に力

を入れていきたい。」「現地の状況を想像するのと、実際に見るのでは全然違う。また自分から世界の問題に触れる行動を起こすことが自分にとってもこれから SDGs の課題に取り組む 1 人してもとても重要だと思った。」などの声が聞かれた。

以上、2つの取組をはじめとして本校では今後も「SDGs」についての学習を継続し、「SDGs」への取り組みをさらに具体的な活動の実践につなげていく。

(3) 地域と連携したボランティア活動

前述のとおり、本校は袖ヶ浦市で唯一の公立高校である。そのためさまざまな形で地域に根ざした学校であり、地域への還元のために積極的にボランティア活動を行っている。地元ボランティア団体との協働による植栽活動や保育所における読み聞かせ活動、袖ヶ浦市主催のポイ捨て防止啓発活動への参加など多岐にわたり活動している。

ア 保育所における読み聞かせ活動

本校生徒が保育所等に出向き、0～2歳児クラスから年長児クラスまでの約6クラスに対して保育の支援をする活動も今年で13年目を迎えた。児童数に応じて生徒が付き、絵本を数冊、紙芝居1冊の読み聞かせたあと、工作遊びや園庭での遊びを行っている。さらに、園児とともに工作をしたり、プール遊びや鬼ごっこで遊んだり、園児を楽しませている。これらの活動は、保育所の園児たちの豊かな心を育むとともに、絵本の持つ面白さや美しさに気づかせ、言葉に興味を持たせる大きな契機となり、園児個々の世界観の創造と成長に一役買っている。また、公立図書館のイベントにも出向き、読み聞かせや展示物の作成を行っている。

～参加生徒の声～

《活動に参加した感想や工夫した点など》

- ・普段、関わり合うことのない子ども達と近くで接することで、純粹に物事を聞く姿勢を実感することができ、自分にとって良い時間を過ごすことができた。
- ・自分が思った以上に、園児達は読み聞かせを聞いてくれた。高校生活の中で、参加しなければ経験出来なかったことだから良かった！
- ・どう話したら、子ども達に伝えることができるかを考え、話し方や伝え方を意識した。
- ・普段話すスピードにならないよう読み聞かせのために、ゆっくり話すことが大変に感じた。

毎年、保育園の園児や公立図書館の職員の方々からは、高校生による読み聞かせ活動にたくさん感謝の言葉をいただいている。なお、今年度は、新型コロナウイルス感染防止の観点から実施できていないが、今後、12月に袖ヶ浦市中央図書館にて読み聞かせ活動の実施を予定している。

イ 袖ヶ浦市主催のポイ捨て活動（ごみ拾い）への参加

7月13日 火曜日、袖ヶ浦市主催の「袖ヶ浦駅周辺ポイ捨て防止啓発活動」に本校3学年生

徒有志119名が参加した。この活動は、ポイ捨て防止啓発活動の一環として、袖ヶ浦駅周辺のゴミ拾いとポイ捨て防止啓発物資（ポケットティッシュ）の配布を行うものである。当日は、粕谷市長のあいさつの後、市長を先頭に、市民ボランティア、環境美化推進員、袖ヶ浦環境連絡会と袖ヶ浦ワークスリサイクル会の企業の方に加え、本校の生徒など総勢245名の方々が参加し、袖ヶ浦駅周辺のゴミ拾いと啓発物資の配布を行った。

これらのほか、部活動を通して地域と連携した以下のような活動も行っている。

《吹奏楽部》

- ・5月・10月 かずさミュージックフェスタでの演奏（イオンモール木更津にて）

《書道部》

- ・7月 書道パフォーマンス（イオンモール木更津にて）
- ・令和3年度 火災予防啓発用防火標語看板 揮毫（袖ヶ浦市消防署からの依頼）

《卓球部》

- ・5月 袖ヶ浦市教育委員会主催「レッツトライスポーツ！卓球教室」市内中学生を指導

《美術部》

- ・6月 高齢者の在宅生活に役立つ情報を集めた「袖ヶ浦市おたすけ手帳」の表紙をデザイン

《野球部・生徒会》

学校近くの広域農道沿いで地元ボランティア団体とともにを行う植栽管理

- ・7月 地域住民と協力してコスモスの種まき作業に取り組む

（野球部と生徒会役員総勢60人）

地域の住民の方の声として「みんな年を取ってきたので、長く続けるためにも高校生の力に期待している。」とお聞きしている。

～ボランティア活動の成果～

本校は、「令和3年度春季善行表彰」を受賞した。この賞は一般社団法人日本善行会がボランティア活動などで社会に貢献した個人や団体を毎年表彰するものである。本来ならば表彰式が東京都の明治神宮参集殿にて行われるが、今年度は新型コロナウイルス感染症防止のため中止になったことに伴い、6月7日月曜日に袖ヶ浦市長の計らいで伝達式が行われた。前述のように本校が行っているさまざまなボランティア活動がより明るい社会環境づくりに貢献したと評価された。授賞式には、本校の佐藤校長と生徒会長の中村仁哉（3年）が出席した。今後もより一層、地域や行政の方々と連携して、袖ヶ浦市はもとより地域に貢献することができるよう活動し、たくさんの方々から応援される袖ヶ浦高校であり続けたいと考えている。

《 「令和3年度春季善行表彰」受賞後の声 》

- ・袖ヶ浦市長の声

「いろいろな分野で貢献していただき、ありがたい。若い方が地域社会の活動に加わることで、まちに活力が出てくる。」

- ・佐藤校長

「地域と一緒にあって生徒たちが取り組んでいる。お互いにプラスになるような活動にしたい。」

・生徒会長 中村仁哉

「部活動が盛んで、みんな真面目でボランティアにも積極的に参加している。評価されて嬉しい。」との声が聞かれた。

3 広報・報道状況

- ・袖ヶ浦市郷土博物館出前授業 令和3年 6月25日 読売新聞
- ・SDGs 活発化 袖ヶ浦高校で大学生発表 令和3年 10月9日 読売新聞
- ・令和3年度春季善行表彰受賞 令和3年 4月1日 一般社団法人日本善行会
令和3年 6月9日 毎日新聞 新千葉新聞
令和3年 6月18日 千葉日報
令和3年 7月15日 広報そでがうら
令和3年 8月6日 読売新聞
- ・袖ヶ浦駅周辺ポイ捨て防止啓発活動 令和3年 7月16日 袖ヶ浦市ホームページ
- ・環境美化のため協働で取り組むコスモス種まきボランティア作業 令和3年7月21日 千葉日報
- ・袖ヶ浦高校美術部 高齢者の在宅生活に役立つ情報を集めた「袖ヶ浦市おたすけ手帳」の表紙をデザイン 令和3年 6月10日 袖ヶ浦市ホームページ 広報そでがうら+ vol. 3

4 今後の方向性

本校の一番の強みである、地域住民や近隣の学校とさまざまな連携を図りながら、通常の学校生活では味わえない『新たな発見』『計り知れない感動』『やればできるという自信』を実感できることを実現させる、より良い教育活動を展開していく。引き続き以下の3つについて力を入れていく。

(1) 袖ヶ浦市郷土博物館と連携した取組

袖ヶ浦市郷土博物館は、ふるさと袖ヶ浦をさぐるとともに、強く地域と結びつきながら、地域の資料や情報を遠く未来へと伝えようとしている。今後も袖ヶ浦市郷土博物館と連携をし、その教育力を活用した学びを生徒へ届けたい。

(2) 高大連携

今回1・2学年ともに行ったSDGsの学習は、今後の社会を担っていく若い世代に必要な学びであるため、「SDGs」について調べて、知り、学ぶことができ、とても貴重な機会となった。外部から講師の方をお招きし、普段ではなかなか聞けない現在の世界の課題解決につながる「SDGs」についての話を伺うこともできた。今後も、「SDGs」についての学習を継続し、「SDGs」への取り組みをさらに具体的な活動の実践につなげていく。

(3) ボランティア活動

本校は、袖ヶ浦市の関係機関や近隣地域、小中学校などからの支援や協力を受けながら地域に根差した活動に努めている。今後も引き続き、地域との連携を深めながら、地域や関係機関との連絡を取り合い、実施時の状況に合わせてボランティア活動を継続したい。

《 (1) 袖ヶ浦市郷土博物館と連携した取組 》

ア 学芸員による出前授業



2学年の日本史の授業にて出前授業をする様子

イ 上総掘り



上総掘りの概要説明

《 (2) 高大連携 「SDGs」の学習 》

ア 1学年 「今日から始めるSDGs入門」講演会



イ 2学年 「SDGs」講演会



SDGsに関する考えを話し合い、まとめる



「SDGsの17の目標」の優先順位を考える話し合い



各班の意見をまとめ、掲示し共有する



各班で話し合った内容を発表し、共有する



《 (3) 地域と連携したボランティア活動 》

ア 読み聞かせ活動



イ 袖ヶ浦駅周辺ポイ捨て防止啓発活動

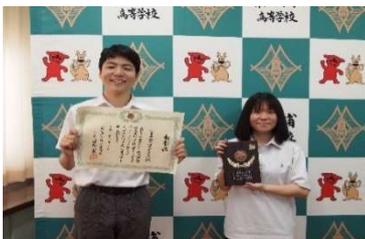


ウ コスモス種まきボランティア活動



《 令和3年度春季善行表彰受賞 》

善行表彰の賞状と盾を持つ生徒会役員



善行表彰の賞状と盾

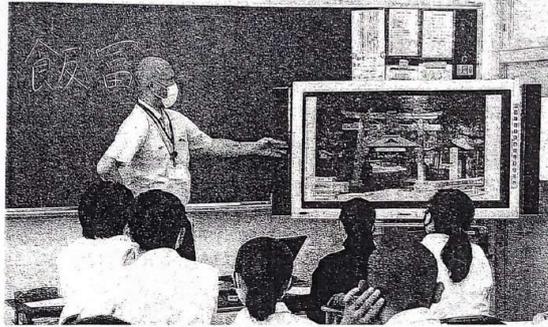


袖ヶ浦市郷土博物館出前授業

令和3年 6月25日 読売新聞

郷土博物館員が出前授業

袖ヶ浦高 神社や地名から歴史探る



神社の画像などを使って地域の歴史を語る前田さん（県立袖ヶ浦高校で）

袖ヶ浦市神納の県立袖ヶ浦高校で、市郷土博物館の職員が神社や地名から地域の歴史を探る出前授業を行った。

2年生の日本史の授業で、生徒たちに地元の歴史への興味を持ってもらうと、初めて企画された。同館の前田雅之さんが、通学路にある神社と地名のつながりなどを語った。同校とJR袖ヶ浦駅との間にある福王台地区には福王神社があり、壬申の乱に敗れた大友皇子の息子「福王丸」が落ち延びて来たこと由来するといふ。教科書に登場する出来事と地元の地名との結びつきなどを生徒た

ちは興味深そうに聞いていた。宮崎竜斗さん(17)は「家がある君津市亀山地区の神社の由来も確かめてみたい」と話していた。

SDGs 活発化 袖ヶ浦高校で大学生発表

令和3年 10月9日 読売新聞

「環境向上 目標とずれ」



フィリピン留学体験をもとにSDGsの意義を語る五十嵐さん（県立袖ヶ浦高校で）

袖ヶ浦市神納の県立袖ヶ浦高校では7日、柏市の開智国際大3年の五十嵐愛美さん(20)が、海外研修を通じたSDGsの学習体験を発表した。同校は「総合的な探究の時間」の授業で、SDGs学習を取り入れている。「高校生はどんな取り組みができるのか」という生徒の意見に答え、大学生から体験を聞くことに

袖ヶ浦高で大学生発表

2年生240人を前に、同大の藤本浩由講師(45)は「環境保護に投資メリットを感じた企業を巻き込め」と、SDGsの意義を説明。五十嵐さんは「フィリピンには分別が不十分なゴミ処分場が多く、そこから資源ゴミを回収して生活する人がいる。住環境向上のため処分場を減らしているが、貧困は解消しない」と、環境を良くする目標と現実とにずれがあることを実感したという。「自分たちでできることは」との質問に、五十嵐さんは「節水や節電から始め、海外経験などで日本との違いを知ることが学びにつながる」と答え

SDGs 活発化

国連が提唱する「持続可能な開発目標(SDGs)」について、学生が海外での経験を発表したり、自治体と銀行が協定を結んだり、県内で取り組みが活発化している。

～まちをきれいに～ 袖ヶ浦駅周辺ポイ捨て防止啓発活動を実施しました



[通常ページへ戻る](#) 更新日：2021年7月16日

袖ヶ浦駅周辺で啓発物資の配布とゴミ拾いを行いました

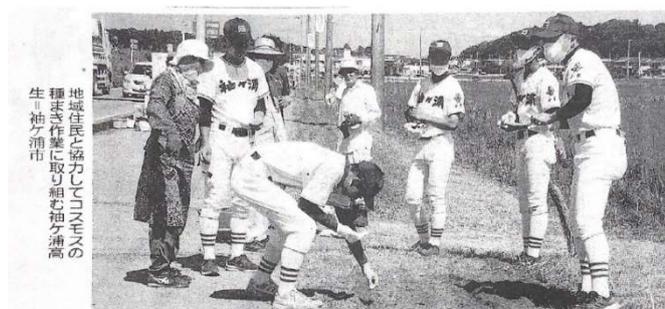
令和3年7月13日（火曜日）午後4時からポイ捨て防止啓発活動の一環として、袖ヶ浦駅周辺のゴミ拾いとポイ捨て防止啓発物資（ポケットティッシュ）の配布を行いました。

ポイ捨て防止啓発活動の様子を紹介します

当日は、市長あいさつの後、市長を先頭に、市民ボランティア、環境美化推進員、袖ヶ浦環境連絡会と袖ヶ浦ワークスリサイクル会の企業の方に加え、袖ヶ浦高校の生徒の皆さんなど、総勢245名の方々にご参加いただき、袖ヶ浦駅周辺のゴミ拾いと啓発物資の配布を行いました。

環境美化のため協働で取り組むコスモス種まきボランティア作業

令和3年7月21日 千葉日報



地域住民と協力してコスモスの種まき作業に取り組む袖ヶ浦高生

袖ヶ浦市神納地区の広域農道沿いで、地域住民らでつくる「神納花の15（いちご）会」（三浦邦夫会長）と県立袖ヶ浦高校生徒によるコスモスの種まきが行われた。春のポピー、秋のコスモスと、環境美化のため協働で取り組むボランティア作業。朝から厳しい暑さとなったが、花の15会の会員と同校野球部員や生徒会役員ら総勢約60人が、歩道脇を耕し、肥料とコスモスの種をまいた。10月ごろ

袖ヶ浦高生徒ら コスモス種まき

にはフラワーラインとなり、散歩する人々や通行する車のドライバーの目を楽しませてくれる。三浦会長は「長く続けたいが、みんな年を取ってきたので高校生の方に期待している」と話した。ほぼ20年間続く取り組みを巡り、花の15会は市景観まちづくり賞の最優秀賞を受賞し、さまざまな奉仕活動に参加する袖ヶ浦高は一般社団法人日本善行会から善行表彰を受けている。

袖ヶ浦高校美術部 高齢者の在宅生活に役立つ情報を集めた「袖ヶ浦市おたすけ手帳」の表紙をデザイン

令和3年 6月10日 袖ヶ浦市ホームページ 広報そでがうら+ vol. 3

広報そでがうら+ vol.3 袖ヶ浦高校 3年生



[通常ページへ戻る](#) 更新日：2021年6月10日



【広報そでがうら+ vol.3】

袖ヶ浦高校 3年生

柳さん（1枚目写真右／全市版を担当）

新留さん（1枚目写真中央／昭和地区版を担当）

森谷さん（1枚目写真左／根形地区版を担当）※写真のみ

今年3月に発行された、高齢者の在宅生活に役立つ情報を集めた「袖ヶ浦市おたすけ手帳」の表紙をデザイン

